

## 事業計画書

①団体名	一般社団法人コノヒトカン
②事業名	未来への設計図 ～フードロス対策から始まる私だけのストーリー～
③テーマ区分	番号：6
④補助回数	*同一事業における補助回数(年数)について、いずれかにチェック <input type="checkbox"/> 1回目 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目
⑤現状及び課題	<p>「コノヒトカン」では、これまで出前授業や講演をはじめとした食品ロス等に関する啓発活動を行ってきました。しかし、より多くの方々にわかりやすく伝えるためには、さらなる教材や人材の整備が必要だと感じ、この「備中地域みらいづくり支援事業」を通じて教材作成に取り組むこととしました。</p> <p>令和7年度には、「コノヒトカン」は食品ロス削減に向けた一人ひとりの意識改革を目指して、食品ロスや防災といったテーマを効果的に学べる小学校教員用指導教材の作成に取り組みました。予定通り、計9時間の教材が完成し、現在6校の小学校で活用してもらっています。</p> <p>教材作成に携わった高校生たちは、自分たちが伝えたいことをいかに小学生にわかりやすく伝えるかという目線を持って教材作りに取り組む中で、新たに、授業の構成や目標設定や振り返りの大切さという教える立場の視点も見つけることができました。さらには、教員を目指す高校生2名が、実際に小学校で講師として出前授業を経験するなど、キャリア教育にも繋がっています。</p> <p>また、子どもたちが楽しみながら授業に参加する様子や、出来上がった成果物を見た先生方からは、教材を提供したことや講師として授業を実施したことへ感謝の言葉をいただきました。特にゲーム性の高いすごろくは、チームで楽しく取り組みながらコノヒトカンが実施するフードロス対策への取り組みを知ることができるため、導入教材として多く採用していただきました。そのため、継続して教材の提供や講師としての授業実施をしていくことで、教員の負担を減らし、多様な意見を尊重する自由な学びの場を実現させていきたいと考えています。</p> <p>一方で、いくつかの課題が明らかになりました。</p> <p>① 教員が独力で授業を進めることが難しかった  すごろくの進行には、コノヒトカンの活動背景の理解が前提となる部分が多く、結果としてコノヒトカンスタッフの同行が必須となっていた。</p> <p>② 説明書や流れが複雑で、短時間授業(1時間)に不向きだった  2時間授業を前提とした構成だったため、学校の日程と合わず、もっと柔軟に活用できる教材が求められた。</p> <p>③ 導入校の増加に対し、教材セットが不足した  備中地域での普及が進む中、すごろくの物理的な数が不足しており、複数学級での同時実施が難しくなっている。</p> <p>④ 「学びが一度きり」で探究性が不十分  授業中は盛り上がるものの、「子どもたちが気づきを記録し、振り返り、未来につなげる仕組み」が不十分で、探究学習で大切な“思考の蓄積”が十分に追えなかった。</p> <p>⑤ 防災の学びが“知識中心”になりがちだった  食と防災がつながる本質(朝を迎えられる尊さ・生き抜く力)が十分に深められなかった。</p> <p>⑥ 高校生が主となって教材作りをすることの難しさ  専門的知識の習得が不十分な点や、助言や指示を伝える際の日程調整が難しく、最終的には個別対応をする必要があり、教材の手直しに時間を要したり、統一感の担保ができなかったりした。</p>

	<p>そのため、今年度はこれらの課題を解決し、より専門性が高く教員が使いやすいことに特化した教材を作成していくことに注力するため、教員経験者や栄養士、防災士などの専門的知識を有した人材を中心に教材作成をしていこうと考えています。</p>
<p>⑥事業目的</p>	<p>「コノヒトカン」は、食品ロスや貧困問題の解決に向けた活動を通じて、多くの人々にこれらの課題への関心を広げ、地域での新たな取り組みの「種」となることを目指しています。</p> <p>令和7年度における、小学校教員用指導教材の制作した経験やアンケート結果をもとに教材をブラッシュアップし、教育現場での活用を一層推進します。特に、未来を担う子どもたちを育てる、教員が現在抱えている負担を軽減できるようなクオリティを目指して教員経験者や栄養士、防災士の目線から、食品ロスをはじめとした身近な地域課題を題材にした教材を作成していきます。また、食品ロスという子どもたちにとっても身近なテーマを設定し、そこから子どもたち自身が未来に向かってどう生きるかや、ウェルビーイングについても考えてもらえるような、幅広いテーマを扱った教材にしていきたいと考えています。</p> <p>小学校教員用指導教材は、ドリル形式の冊子を作成し、それらに対応した出前講座や授業スライド案を盛り込むことで、即時学校の授業で活用しやすい内容にし、備中地域の小学校を中心に普及を図っていきます。</p>
<p>⑦事業内容</p>	<p>※備中県民局補助対象事業について、位置づけ（狙い）、概要、受益者（対象者）、実施地域、実施方法などを記載すること</p> <p><b>【狙い】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学生…食品ロスをはじめとした身近な地域課題に興味を持って取り組み、自分たちの将来や備中地域について考える力を身につけます。また、自身が考えた意見を書き込めるドリルを活用することで何度でも見返すことができ、長期的に自分自身の考えを振り返ることや、実際に行動を起こすために必要なことを考える時間も作ることにもつながる。</li> <li>教員…食品ロスの解決を目指すコノヒトカンの専門的なアドバイスを取り入れた教員用指導教材を使用することで、探究活動の授業が行いやすくなり、子どもたちと一緒に楽しみながら学べる授業ができます。ドリルを活用した授業を実践することで、成果物が毎時間できるため、評価に繋げやすい。また、単発ではなく、一連の流れで授業ができるため、授業準備の負担を軽減させることができる。</li> </ul> <p><b>【概要】</b></p> <p>R7に作成したコノヒトカンオリジナル小学校教員用指導教材とオリジナルすごろくをブラッシュアップし、さらに専門性を有した小学生用ドリル教材を作成します。この教材は、児童が「考え、探究し、行動する」力を楽しく育み、その力を活かしてよりよく生きる方法を見出す機会を与えると同時に、授業のワークシートやスライド作成、評価の仕方など、答えのない探求の授業ならではの教員負担を軽減することを目的としています。</p> <p><b>【受益者】</b></p> <p>備中地域の小学校の教員と児童</p> <p><b>【実施地域】</b></p> <p>備中地域の小学校6校など  現在、岡山県内の教育委員会や個々の小学校に研究依頼文を送付し、対象校を選定中である。昨年度協力していただいた小学校で</p>

は、すでに協力の申し出をいただいているところもあり、5月中には500部のドリル教材の提供先を決定させる見通し。

### 【実施方法】

・教員経験者や学習用ドリル作成の経験者、栄養士、防災士、大学教授などの知識を集約し、さらにはコノヒトカンの専門知見を活用して、小学生用ドリル教材を製作し、提供対象となる小学校の教員・子どもたち全員に無料で提供する。

#### ①ドリル教材の概要

コノヒトカンが専門的に進めてきた食品ロス対策に加え、これからの地域連携の形や防災から学ぶ日常の生活のありがたさ、心の豊かさの大切さなどの分野を横断的に学べる構成にしていく。1時間の授業で完結するだけでなく、複数ページにわたって関連内容を子どもたちが書き込み、思考の変化を蓄積できるドリルにすることで、前回よりも高い教育効果を見込める。また、ウェルビーイングの観点を盛り込んで、自分の“しあわせの設計図”をつくるページを挿入し、子どもたちの将来の夢（仕事面）だけでなく、どのような社会の中でどのようなことを成していきたいかという夢を考えさせる機会を提供する。計500冊制作を予定しており、導入校のみならず、教材制作に携わってくれた高校生や関係者の方々への提供も予定している。

また、今年は「栄養士 × 防災士 × 元教員 × コノヒトカン」という専門分野の違う人材を掛け合わせて、より防災授業の強化も行なっていく。防災の知識を通じて、災害時のみならず「朝を迎えられることの尊さ」「食が命を守る」という日常生活に視点を向けさせるといった狙いを追加することで、より食品ロスの観点を自分ごととして捉えることができると考えている。避難生活・備蓄・食中毒予防・心のケアなど“生き抜く防災”内容の授業も盛り込み、自身の心身の安全を確保するために、家族・地域の人との協力関係を構築することの大切さなどに考えを広げていく授業展開を想定している。

AIを積極的に活用して、教材のデザインや内容の精査や、授業ごとの概要を教員用にまとめたものの作成、それぞれの授業テーマごとに導入動画の作成などを試みる。

教材製作に関わるメンバーがAI活用法を受講し、ドリル教材作成に活かせるところを模索していく。現在の段階では、ドリルの外観や内部のワークスペースの配置などのデザイン、ドリル用キャラクターに動きをつけるなど、得意な人員がない活動を担ってもらう予定。

前回の教材を活用する際、学校の教員だけでコノヒトカンについての授業を自走することが難しいという課題があったため、ドリル教材に取り組む前にコノヒトカンの活動や背景を説明した動画の製作を外注する。授業の導入の代わりになるよう、コノヒトカン完成の背景に、フードロス問題や貧困問題の解決を目指したことを知り、現状を調べる意欲が湧いてくるような内容にする。教員がこの動画を授業の最初で流すだけで、子どもたちがすぐに活動に入れることで、教員の負担を減らすことが期待できる。

#### ③ すぐろく教材5セットの追加製作

すぐろく教材はコノヒトカンの活動内容やフードロスについて主に知識を学習できる教材となっているが、新たな教材ではフードロスは序盤に扱う根幹の部分であり、子どもたちに知識だけでなく、社会問題の背景やこれからの問題を考える時間を想定しているため、今回は教材には挿入しない形とする。ただ、オプション

としての貸し出しは継続していくため、今後外部からすごろく教材の貸し出し要請がある可能性も十分考えられるが、現存の分で足りる可能性が極めて高い。そのため、紙に汚れや痛みが確認された分だけ追加で製作する。

**【子どもたちの理解が深まる教材作成の工夫等】**  
 現在教材を使用している教員からアクティブラーニング形式の授業を評価されたことを受けて、より授業の中で子どもたちが課題の本質や解決方法を考える時間や意見を共有する時間を主体とした授業内容の確立を目指します。具体的には、ドリル教材内のワークシートに掲載された「昨今の社会問題の基本的な情報」を子どもたちが読み取り、そこから教員やドリル内にある問いかけに自分なりの答えを導き出す活動を取り入れます。情報収集の時間よりも、意見交換の時間を重要視することで、子どもたちの考えが深化していくことが期待できます。また、ウェルビーイングの観点から、「これからの社会はどのようになっていくか」という未来予想と「将来自分はこうなりたい」という未来設計を同時に考えることができる活動を後半に取り入れます。自分の未来設計図を考える際に、社会がどのようになっているかを考えることは切り離せないという価値観を共有することで、未来を自分らしく、よりよく生きるにはどうすればいいかを、主体的に考えるきっかけになると考えています。さらには、授業で考えた意見を実行するためにはどのようなことが必要か、実行することで自身や社会にどのような影響が見込めるかといった授業展開ができるようにすることで、子どもたちの行動指標を確立できる可能性も見込めます。また、一冊のドリルを活用するため、以前の授業で考えた意見が見える化し長期にわたって、自身の成長や課題と向き合うことができることが期待できます。

**【教材の有効性の検証】**  
 岡山大学の教授の協力のもと、教材の有効性を客観的に検証するためのアンケート調査を実施予定です。Googleフォームを活用し、10段階評価などを用いた統計的な分析を行います。

**【県民局事業の明記について】**  
 教員が使用する指導教材等の紙媒体資料をはじめ教材の配布にあたっては、「令和8年度備中地域みらいづくり支援事業」で作成した旨を明記し、チラシや小学校への案内等においても明記する予定です。井原市・笠岡市などでは教育委員会を通じた周知を進めており、今後も同様の形で広く周知を図ります。

**【教員向けのワークショップについて】**  
 期間内に最低2回、ドリル・すごろく・パワポの活用方法の共有や質問対応等に対応するための教員向け研修を行います。現在も教材に関する問い合わせには随時対応しており、今後も必要に応じた取組を適宜検討していきます。

\*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応

Zoomなどで対応する。

⑧事業の条件及びアピールポイント

先進性、先駆性、独創性

多くの小学校での出前授業をはじめとして、「コノヒトカン」という具体的で身近な題材から食品ロス問題や食の大切さを学ぶ機会を多数提供してきた実績があるからこそ、食×防災×地域×ウェルビーイングを統合した先進的教材の制作を実現できると考えています。また、これまでの実施校との信頼関係もあり、新たな教材も導入してくれる可能性も極めて高いです。また、防

	<p>災授業の柱として「朝を迎えられる尊さ」を伝えるという観点は防災教育の中でも全国的にも希少なものと考えています。この観点から防災と食の大切さを子どもたちに考えてもらうことが、どのような教育効果をもたらすのかを検証していきたいです。さらには、コノヒトカンの代表の人脈を通じて、栄養士・防災士・元教員というそれぞれの専門家の連携により、教材の効果も担保できます。</p>														
	<p>備中地域への波及効果 この教材の導入により、子供たちが食品ロスの問題を理解し、家庭での実践や地域社会に関心を持つことを始め、防災や地域社会にも積極的に関りたいという気持ちになっていくことが期待されます。そして、実際に行動に移すことができるよう行動指標を設定し、振り返る機会を与えることで、自分自身を評価したり、成長や課題を見つかったり、「自身の強み」や「自分らしさ」などを確立させることが期待できます。こうした経験をした子どもたちを育てることで、社会や地域の課題に向き合うことができるのではないかと考えます。</p>														
	<p>その他、団体の持つ専門性やノウハウ等 食品ロスに関する知識、学生と協力して社会問題に取り組んできた経験、そして出前授業を通じてたくさんの教育現場の声を聞いてきたことが強みです。また、R7で制作した教材の改善点も明確化しており、さらにはアンケートの結果を踏まえて改良していくプロセスを確立しています。講師としても、社会問題を具体的な例を通じて子どもたちに分かりやすく伝える力があり、教員負担を軽減するために、出前授業を各校1時間設ける手立てもあります。そして、人材も豊富なため、教材採用の精査を重ねていき、実践的で理解しやすい小学校教員用指導教材を提供できます。</p>														
<p>⑨今年度の事業による直接の結果（アウトプット）及びその評価指標・評価方法</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="550 1093 774 1137"></th> <th data-bbox="774 1093 1114 1137">内容</th> <th data-bbox="1114 1093 1469 1137">参加人数予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="550 1137 774 1518">1 学期</td> <td data-bbox="774 1137 1114 1518">           1. ドリル教材(500冊)            2. 小学校教員用指導教材の改訂版作成            3. 授業用導入動画の製作（コノヒトカン）            4. すぐろく教材5セット制作            5. 教員研修2回（1・2学期にわたって）         </td> <td data-bbox="1114 1137 1469 1518">           元教員2名            栄養士            防災士            大学教授         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 1518 774 1646">2 学期</td> <td data-bbox="774 1518 1114 1646">           ・コノヒトカンオリジナルの小学校教員指導教材を使った授業         </td> <td data-bbox="1114 1518 1469 1646">           30人×(2～3クラス)×3校  <small>※1クラス人数、クラス数は目安</small> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="550 1646 774 1774">3 学期</td> <td data-bbox="774 1646 1114 1774">           ・コノヒトカンオリジナルの小学校教員指導教材を使った授業         </td> <td data-bbox="1114 1646 1469 1774">           30人×(2～3クラス)×3校  <small>※1クラス人数、クラス数は目安</small> </td> </tr> </tbody> </table>		内容	参加人数予定	1 学期	1. ドリル教材(500冊) 2. 小学校教員用指導教材の改訂版作成 3. 授業用導入動画の製作（コノヒトカン） 4. すぐろく教材5セット制作 5. 教員研修2回（1・2学期にわたって）	元教員2名 栄養士 防災士 大学教授	2 学期	・コノヒトカンオリジナルの小学校教員指導教材を使った授業	30人×(2～3クラス)×3校 <small>※1クラス人数、クラス数は目安</small>	3 学期	・コノヒトカンオリジナルの小学校教員指導教材を使った授業	30人×(2～3クラス)×3校 <small>※1クラス人数、クラス数は目安</small>	
	内容	参加人数予定													
1 学期	1. ドリル教材(500冊) 2. 小学校教員用指導教材の改訂版作成 3. 授業用導入動画の製作（コノヒトカン） 4. すぐろく教材5セット制作 5. 教員研修2回（1・2学期にわたって）	元教員2名 栄養士 防災士 大学教授													
2 学期	・コノヒトカンオリジナルの小学校教員指導教材を使った授業	30人×(2～3クラス)×3校 <small>※1クラス人数、クラス数は目安</small>													
3 学期	・コノヒトカンオリジナルの小学校教員指導教材を使った授業	30人×(2～3クラス)×3校 <small>※1クラス人数、クラス数は目安</small>													
	評価指標	評価方法	目標												

	開催回数の達成度	計画に対する割合	100%
	【対こども】 ①フードロスに関する理解度	フードロスの授業をした日の帰りの会でペーパーテストを実施し、その正答率を見る	80%
	【対教員】 負担軽減の実態	アンケート 肯定的な意見の割合	85%
	※このドリル教材は教員の負担を軽減させることも主目的としているため、ペーパーテストは5分で完了する規模のものにすることや、丸つけ不要の対策などを実施する。		
<p>⑩今年度に期待される成果・効果（短期アクト）及びその評価指標・評価方法</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記</p>	事業参加者		
	<p>① フードロスを身近なものとして考えられ、食の大切さに気付く</p> <p>② 防災士による「生き抜く防災」の知識を身につけ、さらには日常生活の「食が命を守る」という意識から食品ロス問題の解決を自分事として捉える</p> <p>③ 備中地域と自分自身のより良い未来を切り拓く「ウェルビーイング」の考えを持つことができる</p>		
	評価指標	評価方法	目標
	参加者による意識変容	アンケートによるフィードバック	肯定的な意見 85%
	教員の手応え	授業の成果物	成果物に子どもたちの学びが可視化されているか 肯定的な意見 80%
	事業実施団体		
	<p>1. 地域における認知度と信頼性の向上</p> <p>学習教材の制作・普及を通じて、コノヒトカンが地域課題解決と子どもたちが未来を切り開く力を身につけることを目指す団体として、地元住民や教育現場からの信頼を得ることが期待される。</p> <p>2. 新しい協働のきっかけの創出</p> <p>継続して高校生や大学生、教育機関との連携を強化し、食品ロス問題解決に向けた講演などのアクションを共創する実績を作る。</p>		
	評価指標	評価方法	目標
	教材利用校からの信頼度	学校からのフィードバックを収集し信頼度を測定	良いと答えた学校 80%
	講演や出前授業の数	新たな提案件数を記録	5件
備中地域			

各分野の専門家が監修した教材を使用することで、「食品ロス」や「防災」を個の課題として捉えるだけでなく、その関連性に注目させることができ、より子どもたちの関心が高まることが期待できます。さらには、子どもたちを通じて地域の人々への波及効果や地域課題解決の担い手の育成も期待されます。  
 ※「コノヒトカン」の教材を使用する授業がメディアで取り上げられることで、この教材を使用することを希望する学校や団体などから教材使用の依頼がくることを想定する。

評価指標	評価方法	目標
教材案内資料	問い合わせ、配布実績	10件
ドリル教材内の家族欄の書き込み	子どもたちから教えてもらった「フードロスに関する知識や情報」を1つ以上書き込んでいる	全体の50%以上

保護者に向けたアンケートを実施することを助言されたが、「アンケート実施保護者への報連相」や「催促」などの教員の負担を鑑みて、ドリル教材内に、家族も書き込める欄を設置することにする。授業後に、家庭内で子どもたちから教えてもらったフードロスに関する知識を書き込む欄を設けて、意識の変容を見る。

⑪将来的に期待される成果・効果（中・長期アウトルーム）

※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載

事業参加者

子どもたちは身近な問題に気づき、自分で考え、行動する力を身につけることが期待されます。食品ロスや防災、地域の食材について学ぶことで、「自分たちにもできることがある」と感じ、自分の住む地域や社会をより大切に思う気持ちが育まれるでしょう。また課題に対してもさまざまな考え方があつてを学ぶことで、将来に向けて柔軟で創造的な発想ができる力が養われます。そして、その力が、自分自身をより良い未来を切り開く力になることに気づくことで、キャリア教育としての側面も期待できます。

事業実施団体

「コノヒトカン」を使った小学校教員指導用教材の成功事例を通じて、地域社会の課題に取り組むリーダー的存在としての地位を確立します。教材を通じた収益や協働の広がりにより、団体としての財政基盤と活動継続性を強化します。他地域の学校や企業とも連携を進め、コノヒトカンの活動を全国規模に広げる機会を創出します。

備中地域

子どもたちが地元の食材や食品ロス、防災について学ぶことで、地域資源を活かしながら持続可能な未来を考えるきっかけとなり、地域社会の一員としての意識が生まれます。さらに子ども達が学んだことを家族や地域の人々に伝えることで、その影響が地域全体に広がり、地域の課題に目を向ける機会が生まれます。こうした取り組みを通じて将来的には、地域の課題解決に積極的に関わる若者が増え、地域全体が活気づき、より豊かな社会の形成につながることを期待されます。

⑫事業継続化に向けた取組及び事業

コノヒトカンの教材を通じた取り組みの一環として、1年目は高校生が主体となり、コノヒトカンが専門的な知見で監修した小学校教員用指導教材を制作し、それを活用した授業を実施してきま

<p>展開の予定 (資金確保の見通し等)</p>	<p>した。 2年目となる今年度は、1年目の授業で得たアンケート結果や新たな専門家の意見をもとに教材をブラッシュアップし、より教員の負担軽減と子どもたちが探求を深められることを意識した教材として活用してもらえよう改良を加え、教育現場での活用を一層推進していきます。また、食材ロスを始めとする社会課題、地域課題を考えることが子どもたち自身の未来を切り開く力とリンクしていることを、子どもたちのみならず、教員が自覚できることを目指します。 さらに、評判の良かった教員向けの講座や高校生たちによる出前授業の場を継続して設けていきます。今年度の3月には、授業の成果の向上やなど探究学習で学んだことを、子どもたちがポスターにまとめて発表する場に参加し、子どもたちの学びを地域全体に知ってもらえるような機会を提供することも視野に入れていきます。 事業継続に向けては、この取り組みが市町村の教育委員会のモデル事業として位置づけられることを目指しており、将来的には教材事業として収益化を図り全国展開していくことを目指しています。</p>
------------------------------	--

<記入上の注意事項>

- 1 各項目は、簡潔かつ明瞭に記入してください。
- 2 「④補助回数」欄の2回目は、前年度に採択された事業を今年度も継続して実施する場合に選択できます。
- 3 「⑤現状及び課題」欄は、事業実施の要因となる地域課題や問題点、社会的背景等について記入してください。なお、根拠となる統計データや当事者の声などがあれば、それも示してください。
- 4 「⑥事業目的」欄は、事業を通じて実現したいこと、目指す将来的な姿（社会、経済、生活、環境等）について、「⑤現状及び課題」、受益者（対象者）等を踏まえて記入してください。
- 5 「⑦事業内容」欄は、課題解決や「⑥事業目的」における位置づけ（狙い）とともに、概要、受益者（対象者）、実施地域、実施方法などを事業項目ごとに具体的に記入してください。また、天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応（代替案の検討、事業縮小、事業中止等）についても併せて記入してください。なお、事業が複数の場合は、それぞれの事業ごとに内容を記入してください。
- 6 「⑧事業の条件及びアピールポイント」欄は、事業条件としている広域性又は先進性、先駆性、団体の持つ専門性やノウハウ等のアピールポイントについて具体的に記入してください。なお、先進性、先駆性は、他地域での先進例や成功例等もあれば、それも参考として記入してください。
- 7 「⑨今年度の事業による直接の結果（アウトプット）及びその評価指標・評価方法」欄は今年度の活動計画及びその評価指標・評価方法を記入してください。「⑩今年度に期待される成果・効果（短期アウトカム）及びその評価指標・評価方法」欄は事業実施により得られる今年度の利益や変化及びその評価指標・評価方法について記入し、「⑪将来的に期待される成果・効果（中・長期アウトカム）」欄は、事業を継続して行うことで、将来的に得られる利益や変化について記入してください。なお、事業が複数の場合は、⑨、⑩、⑪は事業ごとに分けて記入してください。
- 8 「⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定（資金確保の見通し等）」欄は、「⑥事業目的」や「⑪将来的に期待される成果・効果（中・長期アウトカム）」を踏まえ、翌年度以降に実施する予定の事業内容、組織体制、財源確保の手法、事業継続の工夫等について記入してください。
- 9 記入箇所が不足する場合は、必要に応じて行挿入等を行ってください。

日 程 計 画 表

年月	事業内容	場所	規模等
4 月 ～7 月	○小学校教員用指導教材製作 1 年目の授業で得たアンケート結果や新たな専門家の意見をもとに教材をブラッシュアップと、新規ドリル教材を作成する。 1. ドリル教材(500 冊) 2. 小学校教員用指導教材の改訂版作成 3. 授業用導入動画の製作 (コノヒトカン) 4. すごろく教材 5 セット制作 5. 教員向けドリル教材指導書		
6 5 月	○教材を使用する小学校決定		
7 月	○ドリル教材の構成データ完成		
6 月 ～8 月	○ドリル教材造本 (500 冊) ○教員研修 2 回実施 (対面もしくはオンライン)	小学校 6 校	
8 月			
9 月 ～ 12 月	○小学校へ案内 対象学校 6 校へ配送 ○2 学期総合授業として使用 1 クラス 30 人～40 人学級×3 セット すごろくセット(5 人～7 人で使用×40 セット) 出前授業 講師派遣 3 名 動画撮影		30 人× 3 クラス 6 校
2 月 ～3 月	○アンケートとりまとめ フィードバック		

<記入上の注意事項>

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください(例：○○市文化センター、△△市内)。不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」欄は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場合は未記入で構いません。